

Business Report 2008

平成20年3月期 期末報告書
(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

YSK
焼津水産化学工業株式会社

天然素材のフィールドの中で、“おいしさと健康”を追求します。

Top Message

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃のご支援に心から御礼申し上げます。

さて、ここに平成20年3月期の期末報告書をお届けするにあたり、事業の概況についてご報告申し上げます。

当期の食品業界におきましては、燃料・原材料の価格高騰によるコスト上昇、少子高齢化による国内食品市場の縮小など、厳しい営業環境が続きました。しかし、その中でも消費者の安全・安心の意識の高まりに 대응する商品や、高級惣菜など付加価値の高い商品の需要は衰えていません。また、高齢化社会や健康意識の高まりにより、健康関連市場は堅調です。

平成20年3月期は増収減益となりました

このような環境の下、当社グループは“おいしさと健康”をテーマに事業活動を推進するとともに、当期より増益体質の確立、優位性の創造と確立、組織力の強化と連携、社会・顧客対応の充実、および人材育成の強化を課題とした3ヵ年中期経営計画をスタートさせ、実行しています。

「調味料事業」は、不採算品の整理を推進し、成長している弁当・惣菜などの中食分野に対して新製品を投入するなどの施策に注力しました。しかし、加工食品市場



代表取締役社長
坂井和男

全体の需要鈍化などによる落ち込みを補うまでには至らず、売上高が減少しました。「水産物事業」は、販売先での競争激化や事業の再構築などの影響で、売上高が減少しました。

一方、「機能食品事業」は、流動食などの医療栄養食の需要増加や、機能性素材N-アセチルグルコサミンの大型商品への採用および素材認知度向上により、販売量が増加しました。「その他の事業」は、受託加工等が増加したため売上が増加しました。

なお、平成18年に設立した当社100%出資子会社 株式会社ソルケアは、店頭小売用商品の企画・開発を行って

決算ハイライト（連結）

（単位：百万円）

	平成20年3月期(当期)	増減（前期比）
売上高	18,663	0.5%増
営業利益	862	2.9%減
経常利益	983	10.5%減
当期純利益	520	7.6%増

中期経営計画（ハーベストプラン）

- ・増益体質の確立
- ・優位性の創造と確立
- ・組織力の強化と連携
- ・社会・顧客対応の充実
- ・人材育成の強化

きましたが、売上拡大が見込めないことから、当期中に特別損失60百万円を計上し、清算を完了しました。

以上の結果、当社グループの当期の連結売上高は186億63百万円（前期比0.5%増）になりました。しかし、利益面では、燃料費・原材料費の高騰を販売価格に転じることが難しく、営業利益は8億62百万円（同2.9%減）、経常利益は9億83百万円（同10.5%減）にとどまり、増収減益となりました。当期純利益は5億20百万円（同7.6%増）でした。

平成21年3月期は 増収増益を見込んでいます

現在の食品業界を概観しますと、一段と高騰した燃料費・原材料費の上昇分を販売価格へ転じることが避けられない状況となっています。「調味料事業」は中食分野への新製品の販売に力を入れるとともに、安全・安心の消費者志向の製品販売を進め、業績回復を実現してまいります。「機能食品事業」は、販路拡大を推進して売上増加を図り、採算性向上により営業利益を改善するなど

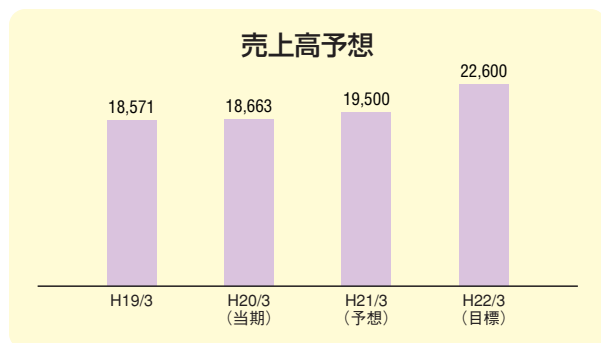
中期経営計画の施策を着実に進めます。これにより、次期（平成21年3月期）は連結売上高195億円（前期比4.5%増）、営業利益10億40百万円（同20.6%増）、経常利益11億50百万円（同17.0%増）、当期純利益6億40百万円（同23.0%増）を見込んでいます。

なお、当期の期末配当金は、1株につき9円とさせていただきます。実施済みの中間配当金1株当たり10円とあわせて、年間配当金は1株当たり19円（配当性向51.3%）となります。また、次期につきましては、1株当たり年間19円（中間10円、期末9円）の配当を予定しています。

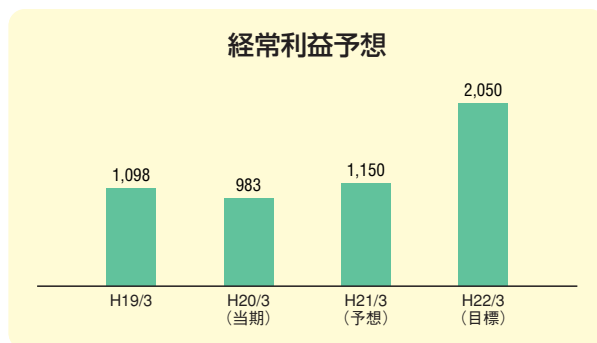
当社は平成21年3月に創立50周年を迎えます。ここまで成長してこられたのは、株主の皆様をはじめとする当社のステークホルダーのご支援の賜物と感謝しています。今後も時代の変化をとらえ、“おいしさと健康”を社会にお届けし、健全な成長を目指してまいります。今後とも株主の皆様のご理解を賜り、末長いご支援をいただきますようお願い申し上げます。

連結業績見通し（平成20年5月15日発表による）

（単位：百万円）



（単位：百万円）



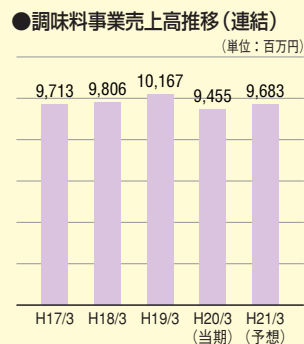
事業セグメント別の状況について

■ 調味料事業

食品業界は、国内需要の減少で競争が激化し、さらに当社の主力としてきた加工食品市場が伸び悩んでいます。一方、持ち帰り弁当・惣菜などの中食産業は好調で、当社の得意とする和風調味料の需要が高まっています。

当社はこの市場に食品の風味を長持ちさせる特徴のある「だし」、および低塩調味技術を応用した「しょうゆ・しお」などを開発・上市しました。しかし、加工食品市場向け製品の落ち込みをカバーするには至らず、当期の連結売上高は94億55百万円（前期比7.0%減）にとどまりました。営業利益は燃料・原料の価格高騰により圧迫されましたが、不採算品を整理したことなどにより、10億58百万円（同9.0%減）となりました。

次期（平成21年3月期）は、好調な中食産業に向けた製品を拡充し、新しい戦略を開拓するとともに、安全・安心の消費者志向の製品販売を推進することで、売上高96億83百万円（前期比2.4%増）となる見通しです。



■ 機能食品事業

機能性食品素材が配合されている健康食品は、販売方法や広告などの規制強化に伴い、ここ数年、市場の拡大が止まっています。しかし、消費者の健康志向は依然として高く、知名度があり、効果が実感できる素材のニーズは伸びています。

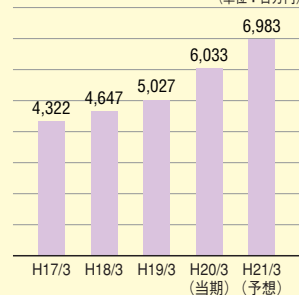
当社は子会社のUMIウェルネス株の商品広告や、素材PRにより、機能性評価の高いN-アセチルグルコサミンの知名度向上に注力しています。当期は大型商品への配合などによる販売増加で、売上が大幅に伸びました。

流動食などの医療栄養食市場は、高齢化を背景に毎年拡大しており、当社の売上高も順調に推移しています。機能食品事業の当期の連結売上高は60億33百万円（前期比20.0%増）、営業利益は2億43百万円（同36.0%増）となりました。

次期は、今後も売上増加が見込まれる流動食およびN-アセチルグルコサミンの製造設備への投資を行い、増産体制を整えます。機能性食品素材の販路拡大や流動食の需要増加などで、売上高69億83百万円（前期比15.7%増）となる見通しです。

●機能食品事業売上高推移（連結）

（単位：百万円）



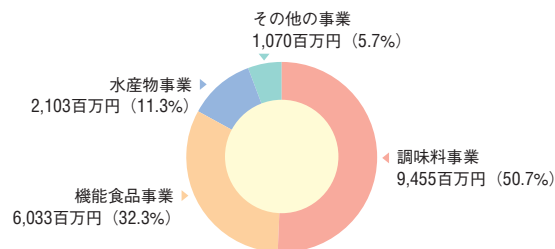
■ 水産物事業

水産加工業界は魚価の高騰により、消耗戦を強いられています。当期は不採算製品の整理など事業の再構築を行い、当期の連結売上高は21億3百万円（前期比13.0%減）、営業利益はマイナス24百万円（前期は35百万円の損失）となりました。次期の売上高は18億14百万円（前期比13.8%減）となる見通しです。

■ その他の事業

香辛料、受託加工などからなるその他の事業は、受託加工等が増加したことにより、当期の連結売上高は10億70百万円（前期比11.7%増）となりました。しかし、品質向上への取り組みや燃料・原料の価格高騰によるコスト上昇などで、営業利益はマイナス61百万円（前期は6百万円の利益）となりました。次期は売上高10億20百万円（前期比4.7%減）となる見通しです。

■ 事業別売上高構成比



トピックス

■ N-アセチルグルコサミンで受賞

健康食品原料であるN-アセチルグルコサミンの量産化・機能性研究および用途開発に大きな功績があったとして、平成19年度の農林水産先端技術産業振興センター会長賞を受賞しました。



■ (株)カネカとの業務提携が始動

(株)カネカと業務提携し、これにより(株)カネカは当社のN-アセチルグルコサミンを米国市場等で販売することになりました。同社は米国等にコエンザイムQ10などの販売網を築いていたため、これに乗せて販売します。



N-アセチルグルコサミン

■ 産地こだわりの調味料を製品化

産地にこだわった調味料製品を2品発売しました。「香り三昧®いりこN」は、いりこ（煮干し）の産地として名高い長崎産を使用し、「香り三昧®昆布H」は、日高昆布を使い、香り高く、家庭でとる「だし」に近い味に仕上げました。



株主優待についてのご案内

当社は、毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された1単元（100株）以上所有の株主の皆様に、自社関連商品をお送りしています。

今回は、平成20年3月31日を基準に、当社100%出資の通販の子会社「UMIウェルネス(株)」の下記人気商品2品を、平成20年5月にお送りいたしました。

■ 「N-アセチルグルコサミン」1袋

(※市場小売価格4,400円相当)

N-アセチルグルコサミンを1粒に1g配合したタブレット（錠剤）です。甘くておいしく、水なしで手軽に食べられます。N-アセチルグルコサミンは、当社が世界で初めて量産化に成功した健康食品原料で、これまでのグルコサミンと異なり、カニやエビの甲羅から自然のカタチを損なうことなく、じっくり抽出した天然型です。

■ 「魚の骨から作ったカルシウム」1袋

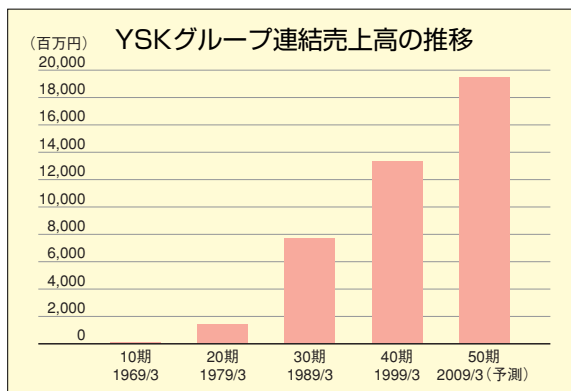
(※市場小売価格2,400円相当)

カルシウムとマリノラーゲンにビタミンK、Dおよび大豆イソフラボンを配合したタブレットです。フルーツ味で気軽にカルシウムを補給できます。カルシウムは信頼できる産地のタラの骨だけを厳選し、専用工場で焼き上げたものです。マリノラーゲンは厳選した魚の皮から抽出し、吸収しやすいように酵素で分子を小さくしました。



50周年を迎えて

YSKグループの歩み

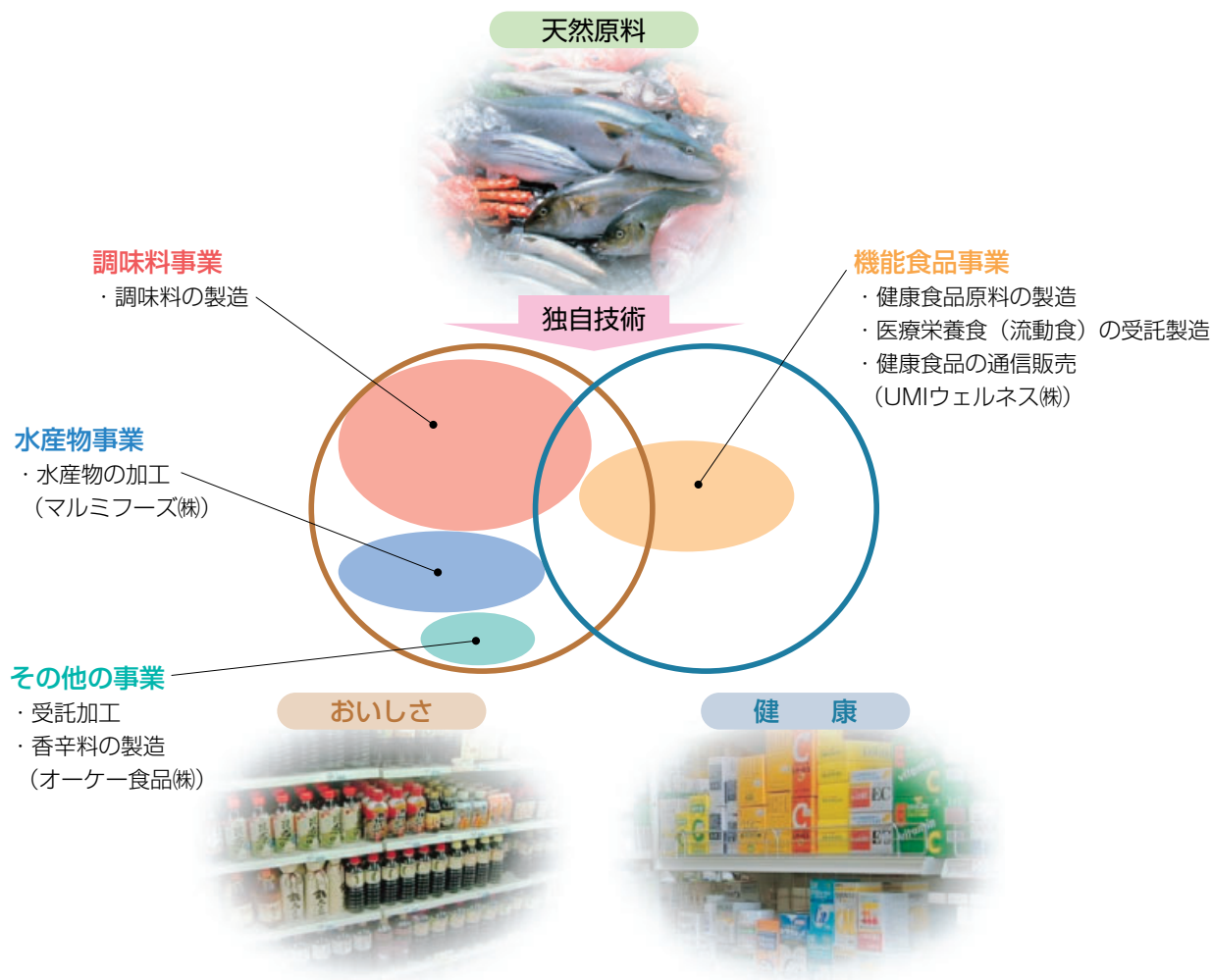


50周年を迎えて

YSKグループの事業領域

YSKグループは、天然の原料にこだわり、おいしく健康によい天然調味料の製造に力を注いできました。また、発足後まもなく、天然素材から人々の生活に有用な物質を取り出す研究を始め、製品化を進めてきました。その製品群は、各種天然調味料はもちろん健康や医療、美容にかかわる機能性素材の分野にまで広がっています。

当社の心からの願いは、人々の食生活を豊かにし、健康増進に寄与することです。今後も天然素材のフィールドの中で、“おいしさ”と“健康”を追求し続けます。



連結財務データ

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	平成19年3月期 (平成19年3月31日現在)	平成20年3月期 (平成20年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	10,976	10,608
固定資産	11,161	10,037
有形固定資産	6,490	6,683
無形固定資産	70	77
投資その他の資産	4,600	3,275
繰延資産	22	14
資産合計	22,160	20,660
(負債の部)		
流動負債	3,765	3,186
固定負債	1,414	858
負債合計	5,180	4,044
(純資産の部)		
株主資本	16,409	16,519
資本金	3,617	3,617
資本剰余金	3,414	3,414
利益剰余金	9,381	9,492
自己株式	△ 4	△ 4
評価・換算差額等	570	96
その他有価証券評価差額金	570	36
為替換算調整勘定	—	59
純資産合計	16,979	16,615
負債・純資産合計	22,160	20,660

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	平成19年3月期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	平成20年3月期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
売上高	18,571	18,663
売上原価	15,196	15,213
売上総利益	3,374	3,449
販売費及び一般管理費	2,486	2,587
営業利益	887	862
営業外収益	261	173
営業外費用	50	52
経常利益	1,098	983
特別利益	0	119
特別損失	44	91
税金等調整前当期純利益	1,055	1,011
法人税、住民税及び事業税	491	452
法人税等調整額	80	38
当期純利益	483	520

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	平成19年3月期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	平成20年3月期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	937	2,014
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,018	150
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 323	△ 1,186
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 0
現金及び現金同等物の増加額(減少額△)	△ 404	977
現金及び現金同等物の期首残高	1,948	1,544
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	61
現金及び現金同等物の期末残高	1,544	2,583

連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日 残高	3,617	3,414	9,381	△4	16,409	570	—	570	16,979
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△266		△266				△266
当期純利益			520		520				520
自己株式の取得				△0	△0				△0
自己株式の処分		0		0	0				0
連結子会社増加に伴う利益剰余金の減少			△143		△143				△143
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△533	59	△473	△473
連結会計年度中の変動額合計	—	0	110	△0	109	△533	59	△473	△364
平成20年3月31日 残高	3,617	3,414	9,492	△4	16,519	36	59	96	16,615

個別財務データ

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	平成19年3月期 (平成19年3月31日現在)	平成20年3月期 (平成20年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	10,296	9,977
固定資産	10,628	10,142
資産合計	20,925	20,120
(負債の部)		
流動負債	2,935	2,611
固定負債	983	659
負債合計	3,919	3,270
(純資産の部)		
株主資本	16,435	16,811
資本金	3,617	3,617
資本剰余金	3,414	3,414
利益剰余金	9,407	9,784
自己株式	△ 4	△ 4
評価・換算差額等	569	37
その他有価証券評価差額金	569	37
純資産合計	17,005	16,849
負債・純資産合計	20,925	20,120

損益計算書

(単位：百万円)

科目	平成19年3月期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	平成20年3月期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
売上高	15,977	16,367
売上原価	12,980	13,330
売上総利益	2,997	3,036
販売費及び一般管理費	2,076	2,106
営業利益	920	930
営業外収益	257	178
営業外費用	30	21
経常利益	1,148	1,087
特別利益	—	116
特別損失	43	69
税引前当期純利益	1,104	1,133
法人税、住民税及び事業税	490	451
法人税等調整額	78	37
当期純利益	535	644

●当社ホームページのご案内

当社のホームページで株主・投資家の皆様に対し、企業情報や財務情報などを積極的に開示しています。最新のトピックスを随時更新し、当社の事業活動や動向を紹介しています。当社を一層ご理解いただくためにも、ぜひアクセスしてください。



<http://www.yskf.jp/>



<http://www.yskf.jp/ir/>

株式の状況

(平成20年3月31日現在)

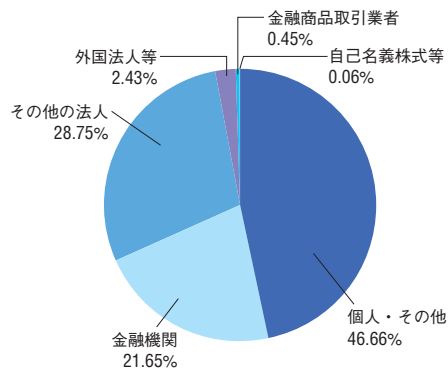
- 発行可能株式総数 50,000,000株
- 発行済株式の総数 14,056,198株
- 株主数 9,881名
- 大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数	出資比率	持株数	出資比率
宝ホールディングス株式会社	1,193千株	8.5%	683千株	0.3%
日油株式会社	902	6.4	759	0.4
株式会社静岡銀行	678	4.8	203	0
鈴木ミツエ	530	3.8	—	—
株式会社りそな銀行	478	3.4	—	—
日興シティ信託銀行株式会社	371	2.6	—	—
松本圭一郎	323	2.3	—	—
焼津信用金庫	321	2.3	—	—
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	316	2.3	—	—
明王物産株式会社	232	1.7	—	—

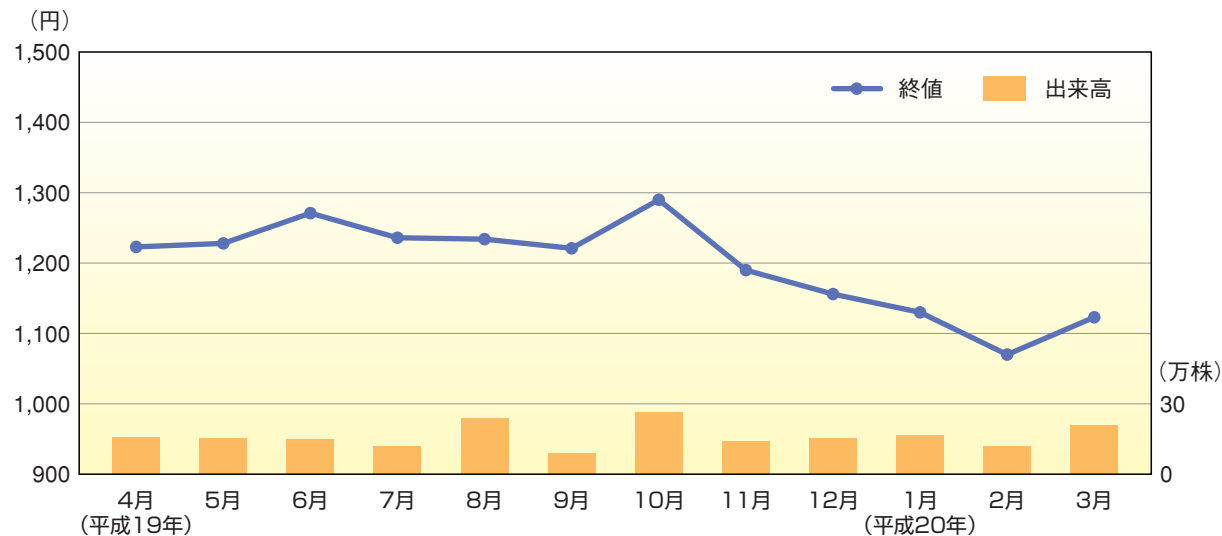
(注) 上記信託銀行の持株数には、信託業務に係る株式が次のとおり含まれております。

日興シティ信託銀行株式会社 371千株
 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 316

所有者別株式数構成比率



株価および出来高の推移



会社概要

(平成20年3月31日現在)

- 商号 焼津水産化学工業株式会社
- 事業内容 天然調味料および機能食品の製造販売
- 資本金 36億1,764万円
- 設立年月日 昭和34年3月18日
- 創業年月日 昭和34年5月15日
- 取引銀行 りそな銀行東京営業部／静岡銀行本店営業部
- 社員 248名（男性200名 女性48名）
営業、事務部員：109名／研究開発部員：30名／製造部員：109名
- 機械設備 各種乾燥装置／減圧濃縮装置／各種粉碎装置／各種抽出装置／各種殺菌装置／各種造粒装置／混合機／ドラム乾燥装置／噴霧乾燥装置／連続減圧乾燥装置／アミノ酸製造装置等
- 重要な子会社の状況

会社名 オーケー食品株式会社 資本金 50百万円 当社の議決権比率 100% 主な事業内容 香辛料の製造	会社名 大連味思開生物技術有限公司 資本金 450万米ドル 当社の議決権比率 100% 主な事業内容 天然調味料および機能食品の製造販売
会社名 マルミフーズ株式会社 資本金 100百万円 当社の議決権比率 100% 主な事業内容 水産物の加工販売	会社名 UMIウェルネス株式会社 資本金 50百万円 当社の議決権比率 100% 主な事業内容 健康食品の通信販売

■役員（平成20年6月27日現在）

代表取締役社長：坂井和男（開発本部長）
代表取締役専務取締役：山本和広（経営統括本部長）
常務取締役：酒井尚吾（営業本部長）
取締役相談役：松本圭一郎
取締役：高橋英之（海外営業部長）
取締役：齋藤 滋（生産本部長）
取締役：松田秀喜（研究開発部長）
取締役：石川眞理子（品質保証センター長）
取締役：山田直道
常勤監査役：石黒厚士
監査役：田中 浩
監査役：澤本猪三雄
監査役：石野達佳



本社

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで。
定時株主総会	毎年6月下旬に開催いたします。
配当金・中間配当金	期末配当金については3月31日現在の株主に対し、中間配当金については9月30日現在の株主に対し、ご指定の方法によりお支払いいたします。
単 位 株 式 数	100株
上場金融商品取引所	東京
基 準 日	(1) 毎年3月31日といたします。 (2) その他必要ある場合には、あらかじめ公告をもってお知らせいたします。
株 主 名 簿 管 理 人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 所	(〒168-0063) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話番号 (0120)78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
お 知 ら せ	住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。 ●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内) ●ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞に掲載いたします。

焼津水産化学工業株式会社

静岡本部 〒422-8067 静岡県静岡市駿河区南町11番1号 静岡・中京銀静岡駅南ビル6F TEL.054-202-6030 FAX.054-202-6031

本 社 静岡県焼津市小川新町5丁目8番13号

焼津・団地工場 静岡県焼津市惣右衛門1195番地の4 (水産加工団地内)

榛原工場 静岡県牧之原市静谷308番地の1

大東工場 静岡県掛川市国安3000番地の1

東 京 営 業 所 東京都中央区八重洲2丁目7番2号 (八重洲三井ビル5F)

大 阪 営 業 所 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目13番9号 (新大阪MTビル1号館9F)

名 古 屋 営 業 所 愛知県名古屋市千種区今池4丁目1番29号 (ニッセイ今池ビル4F)

九 州 営 業 所 福岡県福岡市博多区博多駅東2丁目18番30号 (八重洲博多ビル5F)